



東海メディカル 新研究拠点公開

開発や企画集約

医療機器メーカーの東海メディカルプロダクツ(愛知県春日井市)は十五日、同市内に新設した研究開発拠点「ミライ」を関係者に公開した。写真。本社や工場などに分散していた開発や商品企画の部隊を集約し、効率的な開発と迅速な商品化につなげる。

ミライは鉄骨三階建てで、延べ床面積は千六百八

十五平方メートル。昨年十月に稼働した。五十人ほどの技術者が在籍し、新しいカテーテルの試作から性能試験までを一貫して行える。新製品の開発は早くても二年ほどかかっていたが、人員と機器を一カ所に集めたことで期間短縮が期待される。

同社は筒井宣政会長と妻陽子さんが一九八一年に起業し、輸入品しかなかった心筋梗塞の応急処置に使う「IABPバルーンカテーテル」の開発に成功した。

その後、脳梗塞の治療用などこれまでに百種類以上の製品を生み出し、国内ではトップメーカーになった。